



あてまっふ



新潟

越後国と佐渡国からなる新潟県。その旧国名から越佐（えっさ）と表現されることもある。日本列島のほぼ中心に位置し、四季のめりはりがある地域性を持つ。古くから受け継がれる織物づくり・豊かな食・民家の文化に加えて、近年では大地の芸術祭などの現代文化との調和を見せている。



十日町

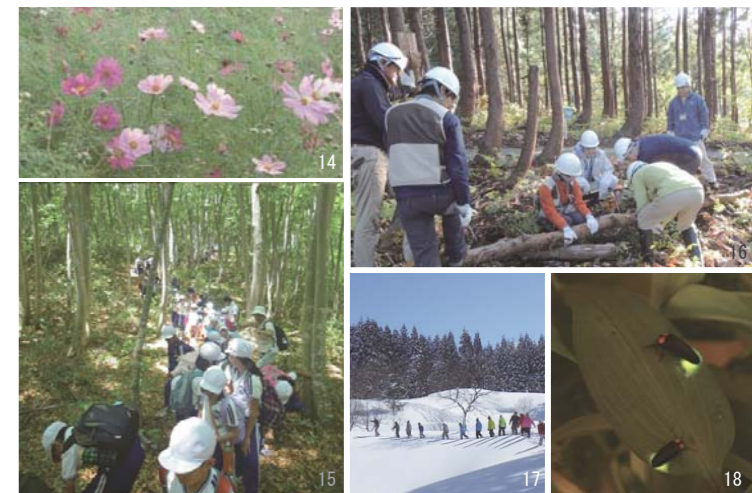
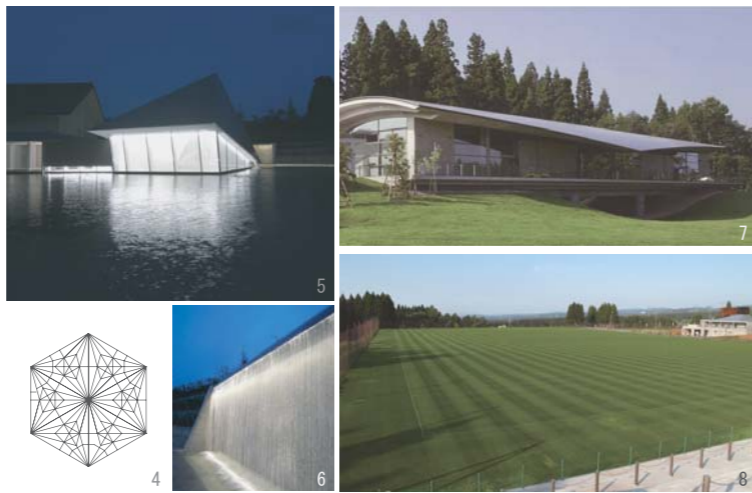
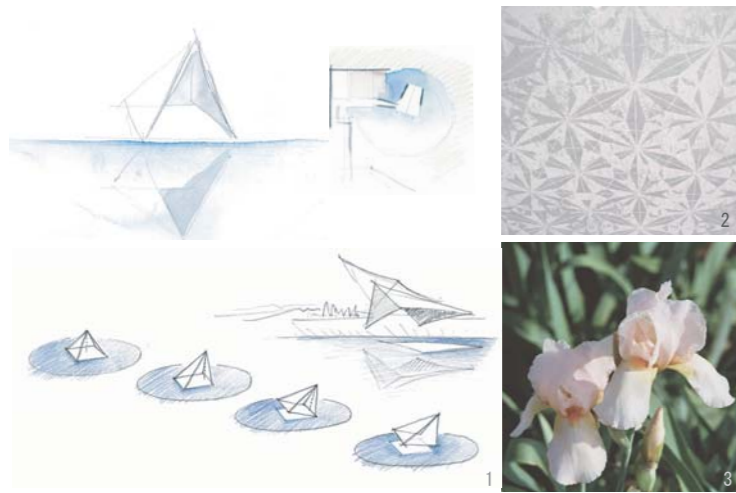
新潟県の南部に位置する市。中央を信濃川が貫き、周囲を丘陵に囲まれた盆地と周囲の山間地からなる特別豪雪地帯。魚沼産コシヒカリの産地。2000年から開催されている3年に一度の大地の芸術祭の舞台。豊かな暮らしのあるここ十日町市に、当間高原リゾート ベルナティオはある。



あてまっふ



国宝「火焰型土器」
十日町市博物館所蔵



祝いの場

ベルナティオの1a Sala (ホール)・FIORIA (宴会場) は KAJIMA DESIGN、テキスタイルコーディネーター・安東陽子氏、照明デザイナー・岡安泉氏による建築作品です。挙式などの祝いの場としてだけでなく、コンサート、映画鑑賞会、シンポジウムなど様々な表情を持つ建築です。第20回 AACA 賞本賞受賞。

1. 雪に立つ四角錐。水盤の上で雪を冠して佇むホールは、連続と生き続けてきた十日町の民家へのオマージュでもある。(表紙) 2. 安東陽子氏によるテキスタイル。万華鏡状の六角形パターンをオーガンジー（透き通った生地）に重ね合わせた。 3. テキスタイルのヒントとなったのは当間で親しまれるジャーマンアイリスの

集いの場

ホールに併設されている宴会場 FIORIA、アクティビティが満喫可能なフォーラムセンター、自然学校の開催される森のホール・水辺のホールなどベルナティオには人々が集える空間が点在しています。森のホール・水辺のホールは建築家・安藤忠雄氏による設計です。

4. 折り紙で折ったアイリスを展開した紋様は雪の結晶にも見え、当間の夏と冬を表す。 5, 6. 岡安泉氏による照明デザイン。陽光のもとでは知られることのなかった風景を映し出す。 7. 谷を渡る橋状のフォルムを持った森のホール。 8. 2002 FIFA ワールドカップ公認キャンプ地においても使用されたクロアチアピッチ。

宿る場

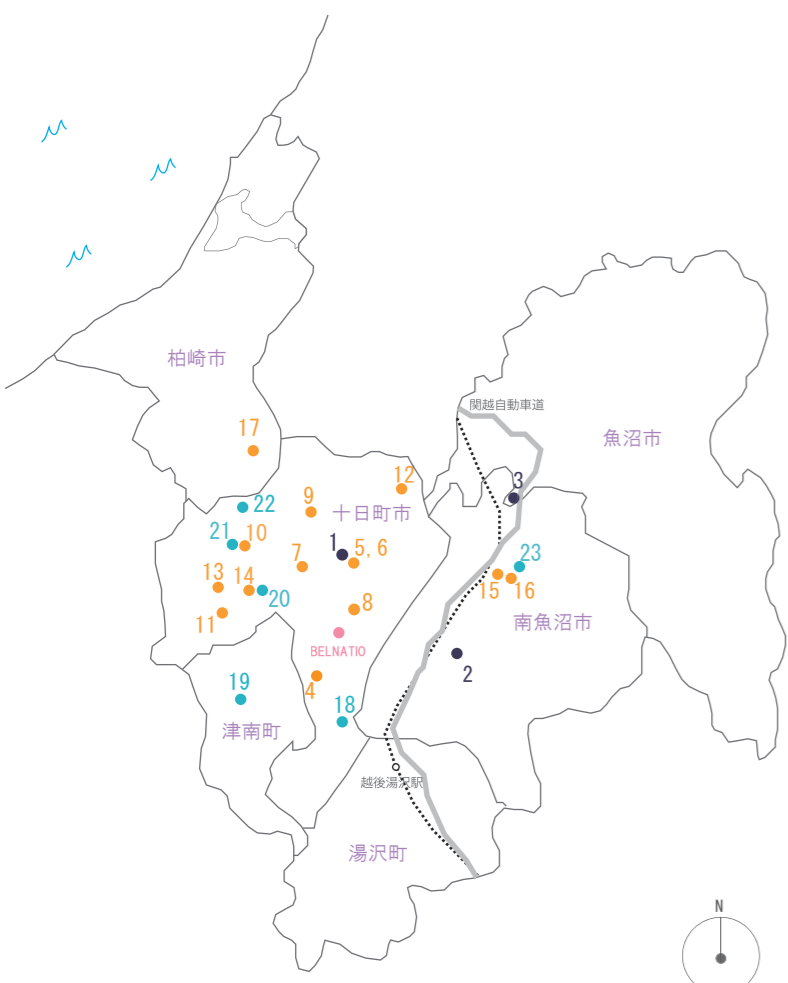
510ヘクタールにおよぶ広大な当間高原。宿泊の場も自然の起伏を最大限に活かしたゴルフコースやブナ林、四季の花々などの緑豊かな環境に囲まれています。自然を満喫した後には、あてま温泉でゆっくり体の疲れを癒すこともできます。ホテル・コテージあわせて500人の宿泊が可能な空間です。

9. 四つの個室を一部屋にまとめたフレンズルームは特許取得済み。 10. 四種のお風呂で楽しめるあてま温泉。 11. フェアウェイを囲む大自然の造形美。ジョン・マイケル・ポーレット氏による設計。 12. 湖が夜の風景に色をつける。 13. 広々としたゲストルームからはいつも緑を望める。

巡る場

ベルナティオでは里山再生の研究フィールドとして自然体験プログラム、人材育成および調査・研究を行っております。実際に自然を巡る場を設けることで、人との関わりによって築かれた自然環境の仕組みとその大切さを伝えていきます。次世代層への人材育成を含め継続的な自然保全を目指しています。

14. 秋にはコスモスが一面に咲く「花だらら」。 15. 地域小学校の遠足の受け入れ。 16. 自然体験活動指導者養成研修の様子。写真の枝打ち・間伐体験の他にも。 17. 地域小学校のかんじきを履いて雪上を歩くスノーシューイング体験。 18. 夏には数枚地に生息するホタルを観察することも。



*各めぐりの○印の大きさはおすすめ度を表しています。
 *各めぐりの○印内の数字はベルナティオからのおおよそのkm数を表しています。
 *各文章内の〔約〇〇分〕はベルナティオからのおおよその所要時間を表しています。

歴史めぐり



きもの

十日町の織物の歴史は1200年前の飛鳥、天平の昔から野生の苧麻(ちよま)を素材とした麻布の生産が盛んに行われてきた。明治に、「蠶の羽」と言われるほど薄くて軽い「明石ちぢみ」が開発された。

1 十日町市博物館

国宝の笹山遺跡出土品が928点所蔵されている。中でも有名な火燧型土器(表紙)は、燃え上がる炎を象ったような形状の装飾性豊かな縄文土器で、炊事や催事などで多面的に供されていたとされる。また積雪期用具や越後縮の紡織用具の展示など、十日町市の歴史・民俗に触れ合える施設となっている。〔約30分〕



3 西福寺開山堂

1534年に創建された曹洞宗の古刹。本堂の隣に建てられた開山堂は、鎌倉時代禅宗仏殿構造、屋根は茅葺き二重層、上層部入母屋造り、総檜五間四方、唐破風向拝を有している。石川雲蝶の彫刻は日本のミケランジェロと称される。〔約60分〕

金城山の麓にあり1300年の歴史を持つ日本一の庵寺。参道の石畳の下には法華経が一石一字ずつ認められて埋められており、踏みしめてお参りすると仏のご利益に預かると言い伝えられている。上杉景勝や直江兼続が幼い頃に学問を学んだ寺としても知られている。〔約60分〕



2 雲洞庵

1999年、情報の受発信の拠点となる「新しい形の図書館」として開館。設計者・内藤廣は、人が集まり群れる広場を目指した。1t/m²の積雪荷重が要求される大屋根は16本の柱で支えられている。冬も自然光を捕うトップライト周辺には雪処理対策が施されている。映画『図書館戦争』のロケ地。〔約30分〕



5 十日町情報館



6 越後妻有里山現代美術館 [キナーレ]

十日町市の中心的な観光・交流施設。ダイナミックな回廊と吹き抜け空間を活かしたイベントの開催や、現代アートを展示。設計は原広司+アトリエファイ建築研究所。施設自体が空間的魅力をもつこと、そして集客力を生み出す建築的特性をもつことを目指した建築作品。〔約30分〕

MVRDV(オランダ)設計による「まつだい雪国農耕文化村センター」は、カフェ、店舗、展示スペースのある宙に浮いた空間が野外パフォーマンス会場の覆屋となっている。構造に関しては、冬場に使用される「雪のトンネル」にインスピレーションを受けた不規則なチューブが主である。〔約50分〕



10 まつだい「農舞台」

1924年築、越後中門造りの茅葺きの古民家をやきもの美術館として建築家・安藤邦廣らにより再生。1階には、日本を代表する陶芸家たちが手掛けたいろり、かまど、洗面台、風呂、地元の食材を使った料理を陶芸家の器で提供するレストランがあり、地元のお母さん達の料理を味わえる。〔約50分〕

12 うぶすなの家



13 オーストラリア・ハウス

設計はアンドリュー・パーソンズ・アーキテクト(オーストラリア)日豪交流の拠点であり、作家が滞在制作する場としても機能。〔約55分〕



富岡惣一郎の油彩画約500点を収蔵・常設展示。トミオカホワイトとよばれる白を基調とした「雪国」、白磁を思わせるような平滑、清澄、そして魅力的な輝きを秘めた独特の白と黒の作品は、「東洋の白」などと評された。〔約55分〕

16 トミオカホワイト美術館



カサグランデ&リンターラ建築事務所(フィンランド)設計。長年ゴミが不法投棄された場所が美しい公園に変わった。釜川の土手に立つ巨大なコールテン鋼の壁。禅庭、ブランコ、東屋など趣の違う空間が連なる。〔約25分〕

4 ポチョムキン

文化めぐり



7 絵本と木の實の美術館

すり鉢形をした鉢集落にある廃校が絵本作家・田島征三の空間絵本美術館に。その世界を表現するのは、流木や木の実、和紙のオブジェたち。鉢集落の人々によって小学校が唯一無二の空間に生まれ変わった。〔約30分〕

縄文時代以来途絶えていた焼き物を蘇らせようと、立ち上げられた「妻有焼」。廃校の小学校を改修した陶芸センターでは、製作体験・陶芸職人の育成・作品の販売が行われている。長さ8mの登窯は内部を仕切った各室で炎を対流させることで1200度以上の高温を保ち、温度調節がしやすいため、ムラなく焼くことが可能。〔約30分〕



8 妻有焼き陶芸センター



9 光の館

昼と夜、東洋と西洋、伝統と近代を対比と融合を目指した作品。昼間は内部見学、夜間は宿泊が可能。〔約40分〕

ジェームズ・タレル(アメリカ)設計。谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』から構想を得た瞑想の為のゲストハウス。越後妻有の豊かな自然の中、様々な光と向き合うことができる。

戦国時代上杉家の隠し湯という説もある日本三大薬湯。泉質はナトリウム・カルシウム一塩化物泉(アルカリ性)で、全て天然に自噴。かつては湯から塩を採取していた。宿泊客にはひなの宿ちとせが人気。〔約40分〕



11 松之山温泉

14 越後松之山「森の学校」キョロロ



里山の自然を体感できる「森の学校」。自然環境の調査・研究、展示の教育施設。設計は手塚貴晴+手塚由比。外壁は全て耐候性鋼板で溶接接合されている。壁は二重構造で、雪の荷重が考慮された設計。等高線に沿った曲がりくねった端部が塔となっている。〔約40分〕

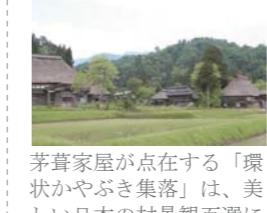
1,000tの雪で日本酒を雪中貯蔵する日本最大規模の雪室。雪による低温高湿な環境下に、貯蔵することで旨みが増す。貯雪室と雪中貯蔵室が一体となった自然対流式の雪室の冷気でショップ内の雪冷房も行う。〔約60分〕



15 八海山雪室

越後妻有の風土や文化を五感いっぱい感じる3年に一度の「大地の芸術祭」。

17 荻ノ島環状かやぶき集落



茅葺家屋が点在する「環状かやぶき集落」は、美しい日本の村景観百選に選定されたどこか懐かしい風景。温泉や宿泊施設もあり、時間を忘れて「じよんのび(ゆっくり)」な暮らしを体験できる。〔約55分〕

自然めぐり

18 清津峡

日本3大渓谷の1つに数えられる日本有数の景勝地。清津峡渓谷トンネルからは雄大で荘厳な渓谷美を堪能できる。〔約30分〕



19 竜ヶ窪

雪と緑と河岸段丘により育まれた湧水は日本名水百選の1つ。日量43,000トンの地下水が湧き出る。季節による水温差が少なく、また水量が豊富なため、旱天でも涸れることがないとされている。昔から神域として保存されている。〔約35分〕



22 芝峠温泉 雲海

朝、雲海を見下ろせる露天風呂。大パノラマは八海山、巻機山、苗場山を一望できる。日帰り入浴も可能。〔約50分〕

樹齢約90年ほどのブナの木が生い茂る。昭和初期、木炭にするため、全て伐採され原野となった後、一斉に育ったブナの林は、すらりとした立ち姿が美しいことから「美人林」と呼ばれるようになった。〔約35分〕



20 美人林

スケール、美しさともに松代地域を代表する。朝霧や春の水鏡は絶景。〔約60分〕



21 星峠の棚田

古くは行者の修行や信仰の山として開山され、今は登山やトレッキングで人気の八海山。越後三山の1峰で、日本200名山のひとつ。81人乗りのロープウェーを利用すると山頂まで所要時間5~7分。山頂展望台からは上信越の山々や四季折々の自然の景色、快晴の日には日本海、佐渡島まで見える美しい360度パノラマを楽しめる。〔約60分〕



23 八海山ロープウェー

雪下になじん



畑に植えたまま雪の下で冬を越すことにより、うんと甘くなる。になじん特有の青臭さが少なく歯切れが良い。特に豪雪地の津南町、十日町市を中心に3月末頃から収穫される。

アスパラガス

新潟のアスパラガスは雪解けの水分や5月の豊富な日照により、軟らかくて甘い。主として十日町市、津南町、新発田市で生産・出荷。



へぎそば

強力のあるコシと滑らかなど越し。織のりづけに使われる布乃利(海藻)をつなぎが使われ、織文化と食文化に恵まれたそばは、『へぎ』という名の器に盛りられることに名前の由来がある。

休館日等は各施設に直接お問い合わせください。なお、枠内に▼印のあるものは「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」の作品となりますので、これらについては越後妻有里山現代美術館 [キナーレ] にお問い合わせください。